

令和3年度 研究紀要 第235号

《研究主題》

# 個別最適な学びと協働的な学びの 実現に向けた授業づくり

～1年次～

- (1) 学習指導要領の趣旨
- (2) 個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
- (3) ICTの活用に関する基本的な考え方



白老町立白老小学校 4年 前田 有凜



## 《巻頭言》

# 「現場主義は、本研究所の魂です」

胆振教育研究所長 立花 和 実

令和3年1月26日に、中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」という答申が出されました。

また、令和3年3月に、文部科学省初等中等教育局教育課程課から「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年3月版)」が出されました。

本研究所は、「胆振管内の教育の進展に寄与する」という目的に迫るため、所員が研究委託校・実践校の研究に参加をさせていただいております。学校訪問の際、「今、学校に求められていることは何か」、「現場が求めていることはどんなことか」を私たちは大切にしています。

昨年度までの3年間は、学習指導要領が小中学校で全面実施を迎えることから、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」に焦点を当て研究に取り組んできました。「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものなのか、授業者としてどのような視点で授業改善を進めるべきなのか、単元等を通して迫るとはどのようなイメージなのか、その評価はどうあるべきなのかが、現場の求めているものだと考え、3冊の紀要にまとめました。

昨年度末、冒頭の答申と参考資料の発出を知って、『『主体的・対話的で深い学び』のほかに『個別最適な学び』や『協働的な学び』もやらなければならないの』と思った先生方もいるのではないのでしょうか。しかも答申は92ページ、参考資料は38ページあります。読み込んで理解するにはかなりの時間を要します。

そこで本研究所は今年度から3年間、「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」に焦点を当て研究に取り組むことにしました。個別最適な学びや協働的な学びについて、現場が求めていることに応えられるような内容を目指して取り組んでいきたいと思っております。お気づきの点やご意見等がございましたら、どうぞ教えてください。皆様のお力をお借りして、私たちも成長していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

終わりになりますが、本研究の推進にあたり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、各市町教育委員会並びに各市町教育研究会の皆様へ深く感謝申し上げます。研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。

# もくじ

「研究紀要の発刊にあたって」 胆振教育研究所長 立花 和 実

## I 研究の構想

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究内容	2
4	研究の全体構造	2

## II 研究内容

1	学習指導要領の趣旨	3
	・ 育成を目指す資質・能力とは	3
	・ 主体的・対話的で深い学びを実現するためには	5
2	個別最適な学びと協働的な学びのおさえ	
	・ 「令和の日本型学校教育」の姿	7
	・ 個別最適な学びとは	9
	・ 協働的な学びとは	11
	・ 学習指導要領とのつながりは	13
	・ 個別最適な学びと協働的な学びの具体例	14
3	ICT活用に関する基本的な考え方	
	・ Society5.0時代にふさわしい学校の実現に向けて	15
	・ 学校教育の質の向上に向けたICTの活用	16
	・ ICT活用に向けた教師の資質・能力の向上	17
	・ 授業でのICT活用例	19

## III 今後の方向性

	・ 今年度の研究を振り返って	20
	・ 参考資料一覧、研究・執筆	21
	・ あとがき	22

# I 研究の構想

## 1 研究主題

### 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 教育改革の動向より

Society5.0 時代が到来し、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識することが求められています。また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

これらの資質・能力を育むためには、新学習指導要領の着実な実施が重要です。新学習指導要領では資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子供たちが「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要です。

私たち教員は、このことを踏まえて、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを推進することが求められます。

### (2) 研究所の研究から

令和2年度の本教育研究所の理論研究「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」から、次のようなことがわかりました。

- 胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに向けた取組ができた。
- 単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- 今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても子供たちの多様な興味を引き出し、学びを提供できるように、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

## 3 研究内容

- ・学習指導要領の趣旨
- ・個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
- ・ICTの活用に関する基本的な考え方

## 4 研究の全体構造

### 【教育活動の動向（子供の課題）】

- ・自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することが求められている。
- ・様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の育成が求められている。

### 【研究所の研究から】

- ・胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに向けた取組ができた。
- ・単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- ・今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

### 【研究主題】

## 「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」

### 【研究仮説】

令和の日本型学校教育の構築を目指して、個別最適な学びと協働的な学びの実現についての共通認識のもと、授業と家庭学習の一体化を図ることや、全ての教科・領域において ICT 等を活用した授業づくりを行うことより、個別最適な学びと協働的な学びの実現ができるだろう。

### 【1年次】理論研究の基礎・基本

- ・学習指導要領の趣旨
- ・個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
- ・ICT の活用に関する基本的な考え方

### 【2年次】理論研究に基づく実践研究

- ・個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践について
- ・授業と家庭学習の一体化について

### 【3年次】理論研究のまとめ

- ・個別最適な学びと協働的な学びの要点の整理
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた各教科等の授業デザイン
- ・研究のまとめ

## Ⅱ 研究内容

### 1 学習指導要領の趣旨

Q. 学習指導要領で育成を目指す資質・能力とは、どのようなものなのですか？

小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から学習指導要領が全面実施されています。学習指導要領は、時代の変化や子供たちの状況、社会の要請等を踏まえ、おおよそ10年ごとに改訂されていますが、今回の改訂においてどのような育成を目指す資質・能力とはどのようなものなのでしょう。2030年の社会と子供たちの未来について、平成28年の中央教育審議会答申には次のように記載されています。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない。

しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

(平成28年度12月中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について より)

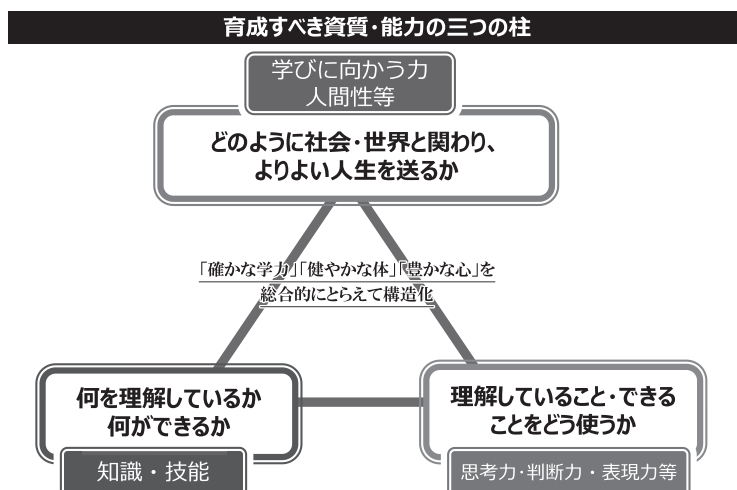
人工知能(AI)やビッグデータなど先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあります。社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じています。また、新型コロナウイルスの感染拡大など行き先不透明で予測困難な時代の中にいる子供たちにとって、今までのような受け身の観点であれば、生きていく上で大変な時代になることは予想がつきます。

そこで、この答申を受けて改訂された学習指導要領では前文が設けられました。育成を目指す児童生徒の姿については、次のように記載されています。

これからの学校には、(略)一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

(小学校学習指導要領前文より)

このような児童生徒になるような資質・能力とはどのようなものなのでしょうか。学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指すとされています。



① 何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能の習得）

- ・各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得する。
- ・芸術系教科における知識は、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながるものであることが重要である。
- ・一定の手順や段階を追っていく過程を通して個別の技能を身に付けながら、そうした新たな技能が既得の技能等と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるように習熟・熟達した技能として習得される。

② 理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力の育成）

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく。
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく。
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく。

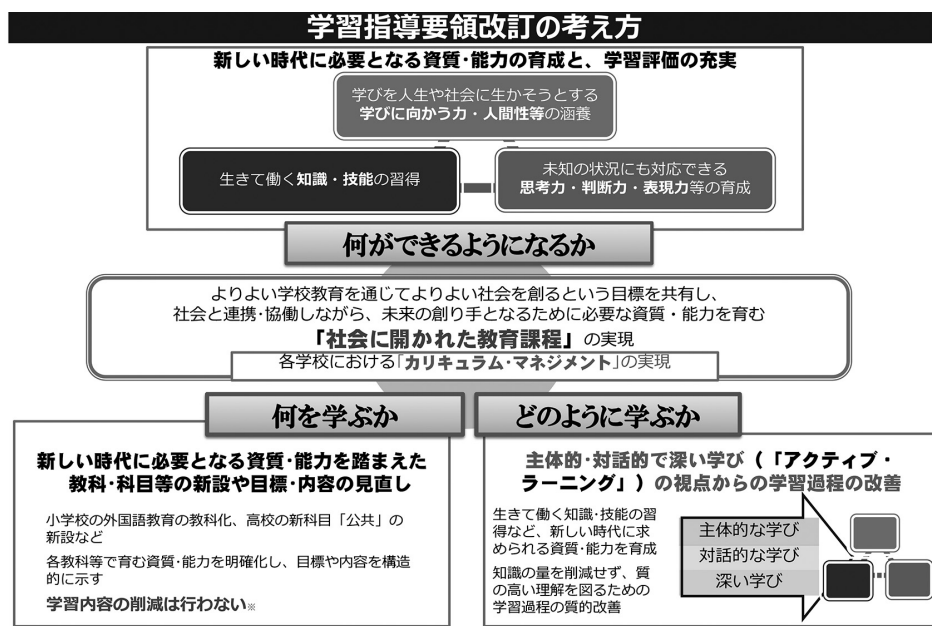
③ どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか

（学びに向かう力、人間性等の涵養）

- ・児童や学校、地域の実態を踏まえて指導のねらいを設定していくことが重要となる。
- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要になる。

# Q. 主体的・対話的で深い学びを実現するために大切なことは何ですか？

学習指導要領では、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理され、その上で、育成するために「何を学ぶのか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成しています。



その中でも、「どのように学ぶか」という点において、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善が求められています。このような視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようになることを目指しています。

## 主体的な学び

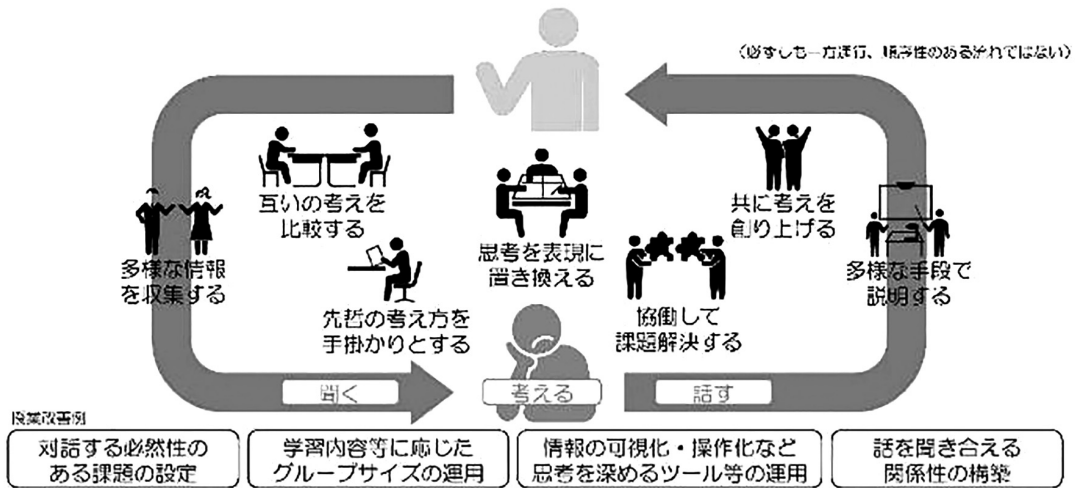
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。





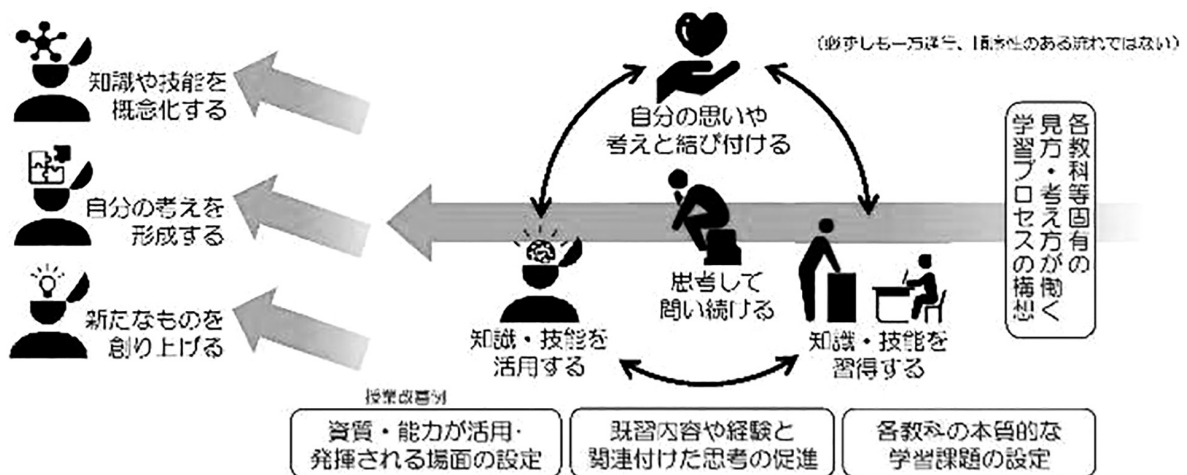
## 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。



## 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。



教師に求められるのは、目標を達成させるために必要な「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」それぞれが実現できた子供の姿をイメージし、その実現に結びつく手立てを取り入れた授業をデザインすることが大切です。主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりについては、胆振教育研究所 HP に掲載されていますので、参考にしてください。

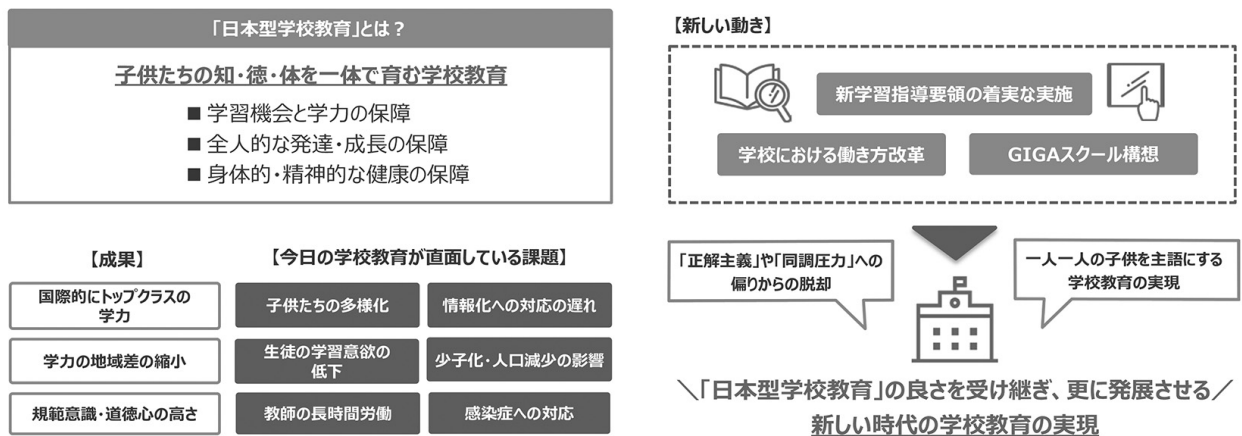


胆振教育研究所  
教育理論 QR コード

## 2 個別最適な学びと協働的な学びのおさえ

Q. 「令和の日本型学校教育」で目指す姿とはどのようなものですか？

明治から続く我が国の学校教育の蓄積である「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させながら、新しい時代の学校教育の実現が求められています。今日の学校教育が直面している課題や、教育現場での新しい動きを把握し、誰一人として取り残すことのない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、次の3つの視点で表されています。



### ① 子供の学び

これからの学校では、子供が「個別最適な学び」を進められるよう、子供の実態に応じて学習内容の確実な定着を図り、その理解を深められるようにすることが大切です。そのために、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、きめ細かい指導や支援、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められています。

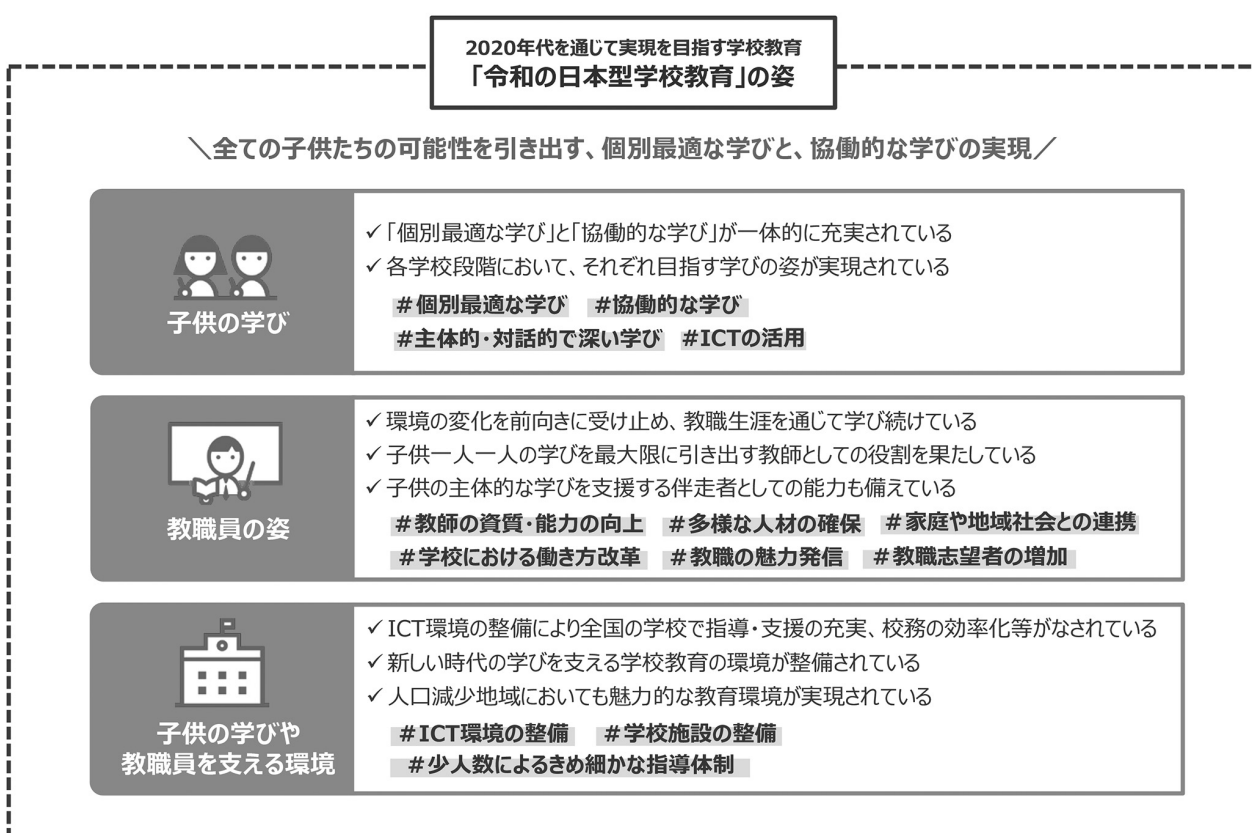
さらに、「個別最適な学び」が孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、他者と協働しながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を一体的に充実させることも重要です。

### ② 教職員の姿

技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境は大きく変化してきています。これを前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心をもちつつ、自律的・継続的に新しい知識・技能を学び続けることが大切です。そして、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たせるようにすることや、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えられるように求められています。

### ③ 子供の学びや教職員を支える環境

GIGA スクール構想により学校の ICT 環境が急速に整備されています。1人1台端末の実現や学校内のネットワーク環境の整備、デジタル教科書・教材等の教育データの効果的な活用や校務支援システムの導入など全国的に整備され、指導・支援の充実や校務の効率化が進んでいます。このようなことは、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、新しい時代の学びを支えるために必要な環境となっています。また、人口減少が加速する地域においても、小学校と中学校の連携、学校施設の複合化・共用化の促進などを通じて、魅力的な教育環境が実現されることが期待されています。



## Q. 個別最適な学びとはどのようなものですか？

「令和の日本型学校教育」の子供の姿にもあったように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、育成を目指す資質・能力にとって必要なものになります。では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とはどのようなものなのでしょう。

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つに分けることができます。

### ① 指導の個別化とは…

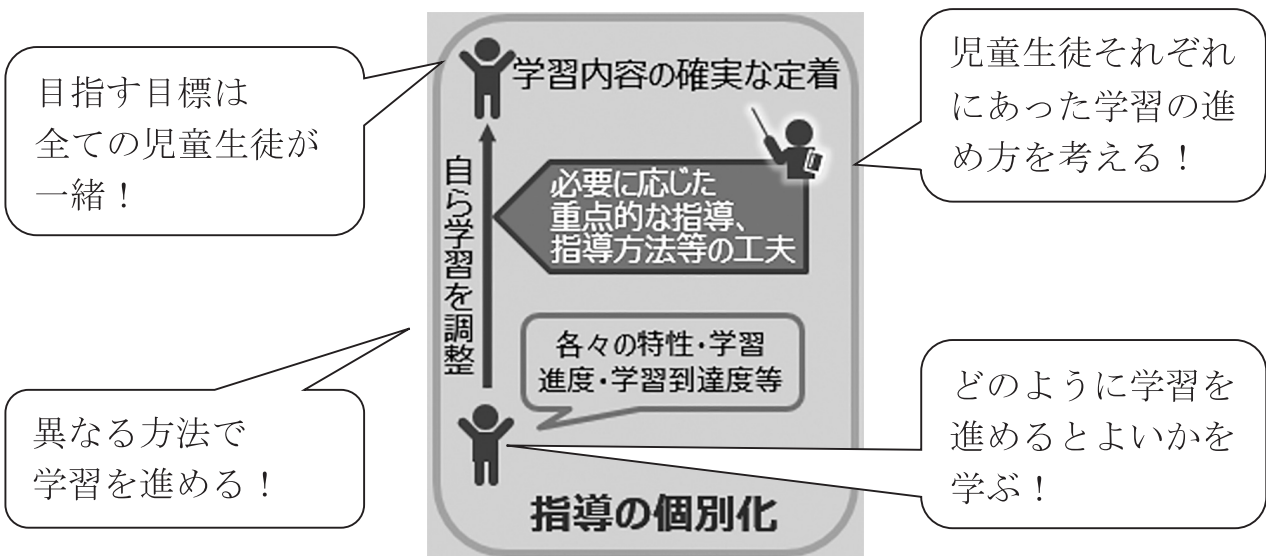
基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと。

(令和3年1月中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」の構築を目指してより)

「指導の個別化」は、一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指す、個々の児童生徒に応じて異なる方法で学習を進めることでもあります。その中で児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的なのかを学ぶことが大切です。これらのことを行うには、

- ・ ICT を活用した児童生徒のきめ細やかな学習状況の把握・分析
- ・ 学習履歴（スタディ・ログ）、生活・健康面の記録（ライフログ）等、児童生徒に関する様々なデータの可視化
- ・ 学習方法等を提案するツールの提案

など、新たな情報手段の活用も考えられます。児童生徒が自らに合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導を工夫していくことが重要です。



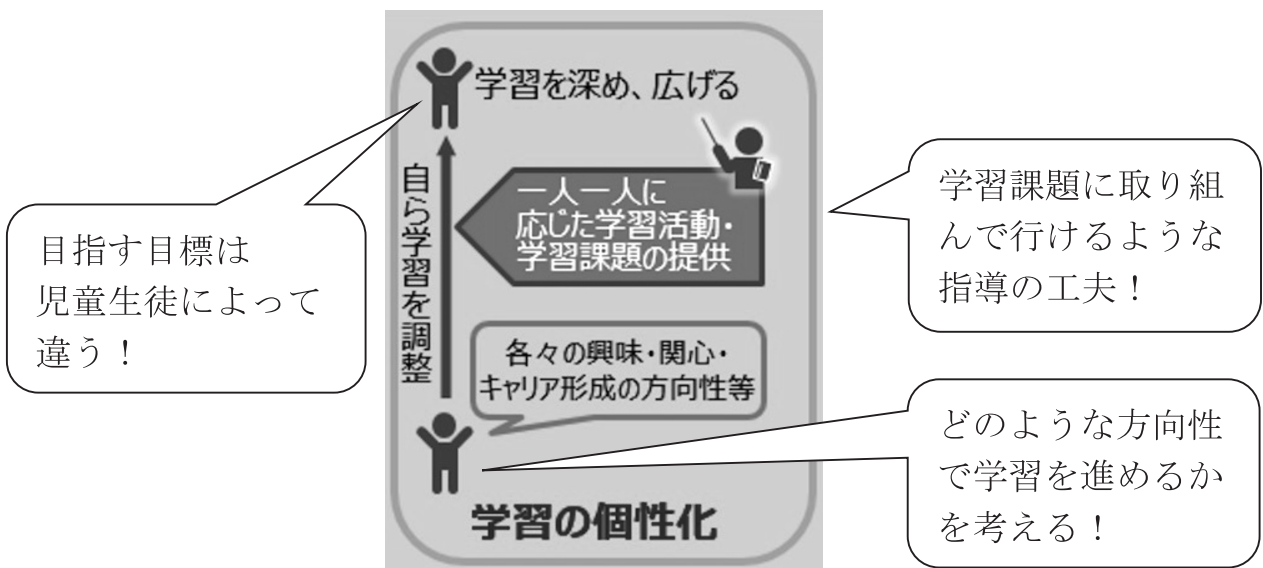
## ② 学習の個性化とは…

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、(中略)教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるように調整する。

(令和3年1月中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」の構築を目指してより)

「学習の個性化」は、個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味しています。その中で児童生徒が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことが大切です。これらのことを行うには、情報の探索、データの処理や可視化、レポートの作成や情報発信などの活動に ICT を効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待されます。

児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるように教師による指導を工夫していくことが重要です。



これらのことから、「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり、この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」となります。

個別最適な学び

→学習者視点で整理

=

個に応じた指導

→教師視点で整理

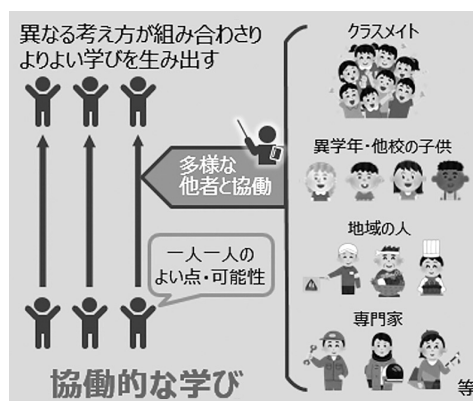
## Q. 協働的な学びとはどのようなものですか？

「個別最適な学び」で児童生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにするには、「孤立した学び」にならないようにすることが必要です。一人では学びきれないことを補うには「協働的な学び」が大切になってきます。「協働的な学び」については、令和3年1月の中央教育審議会で次のように記載されています。

探求的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を実現することも重要である。

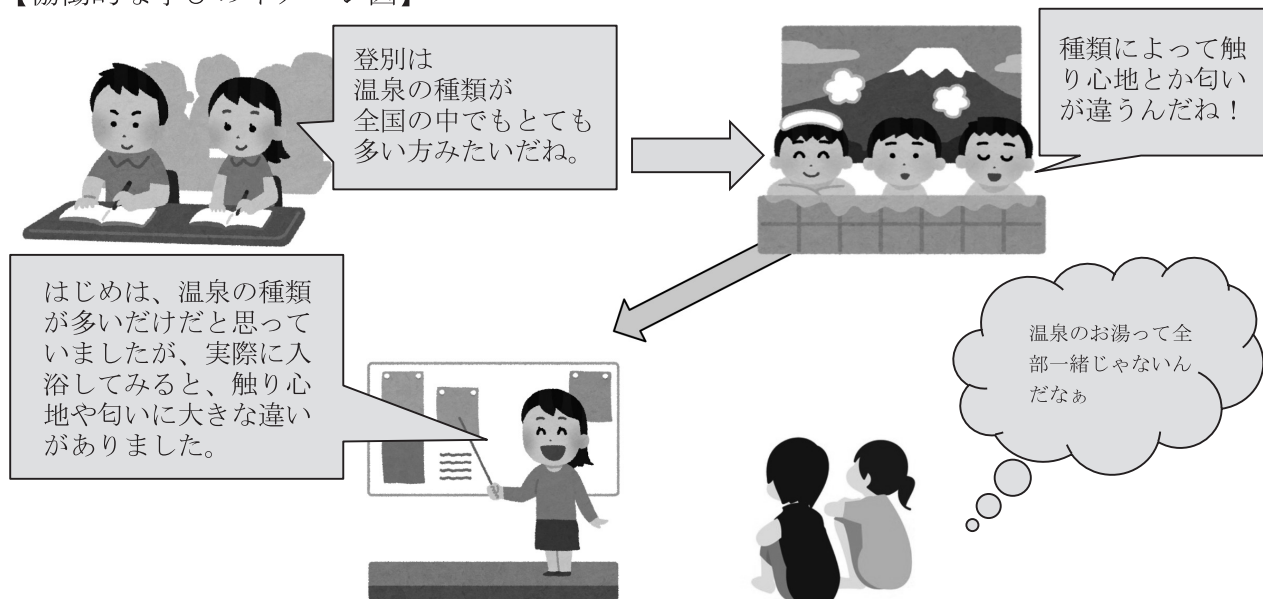
(令和3年1月中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」の構築を目指してより)

「協働的な学び」とは、具体的にどのような姿でしょうか。知・徳・体を一体的に育むには、教師と子供、子供同士、地域、異学年などの関わり合いや、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことだと考えます。また、ICTの活用による空間的・時間的な制約を超えた他の学校の子供との学び合いが可能です。これらは、Society5.0時代にこそ一層高まっているとも言えます。

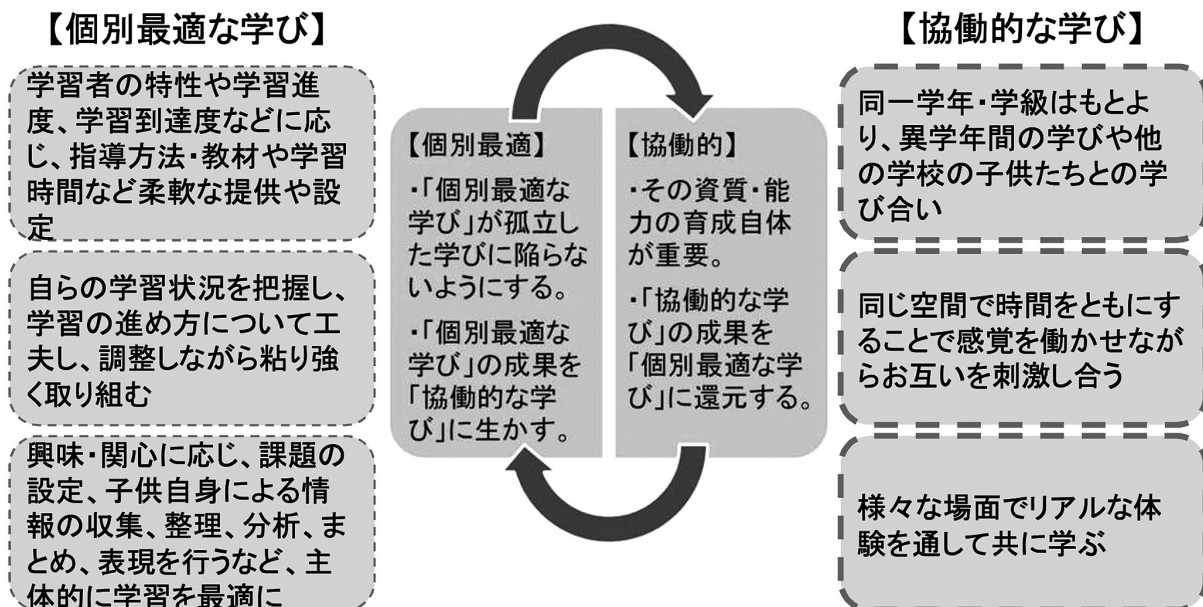


「協働的な学び」では、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出していくようなすることが大切です。

### 【協働的な学びのイメージ図】



学校での授業づくりでは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されると考えます。教科の特質や地域・学校の実態を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かすなど一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが必要です。



COLUMN ～世界一と言われるオランダの教育制度とは？～

ユニセフが実施した2013年度の「子供の幸福度レポート」の教育の項目でオランダは1位を獲得し、最近オランダの教育は世界一と言われることもあります。実際に、日本とオランダの教育制度を比較したのが下の表になります。

	日本	オランダ
学校制度	6・3・3・4制	8・4（～6）・4制
義務教育期間	満6歳～満15歳	5歳～18歳までが義務教育年齢
学校年度	4月1日～3月31日	8月1日～7月31日
学期制	3学期制	なし
特色	日本の義務教育期間は、公立のみ原則無償	義務教育の間は国の補助があり、公立も私立も無償

また、オランダの憲法では、「教育の提供は自由である。」とあるように、子供一人一人の能力や資質、本人の希望によって様々な学習の選択ができます。「自分がやることを自分で選べる子供たちは、自律の感覚を身に付けることができる。」という考えに基づいてこの方針がとられています。まさに「個別最適な学びと協働的な学び」の先進的な取組とも言えるのではないのでしょうか。

# Q. 個別最適な学び、協働的な学びと学習指導要領はどのようにつながっていますか？

## 【個別最適な学びとの関わり】

児童生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ること。

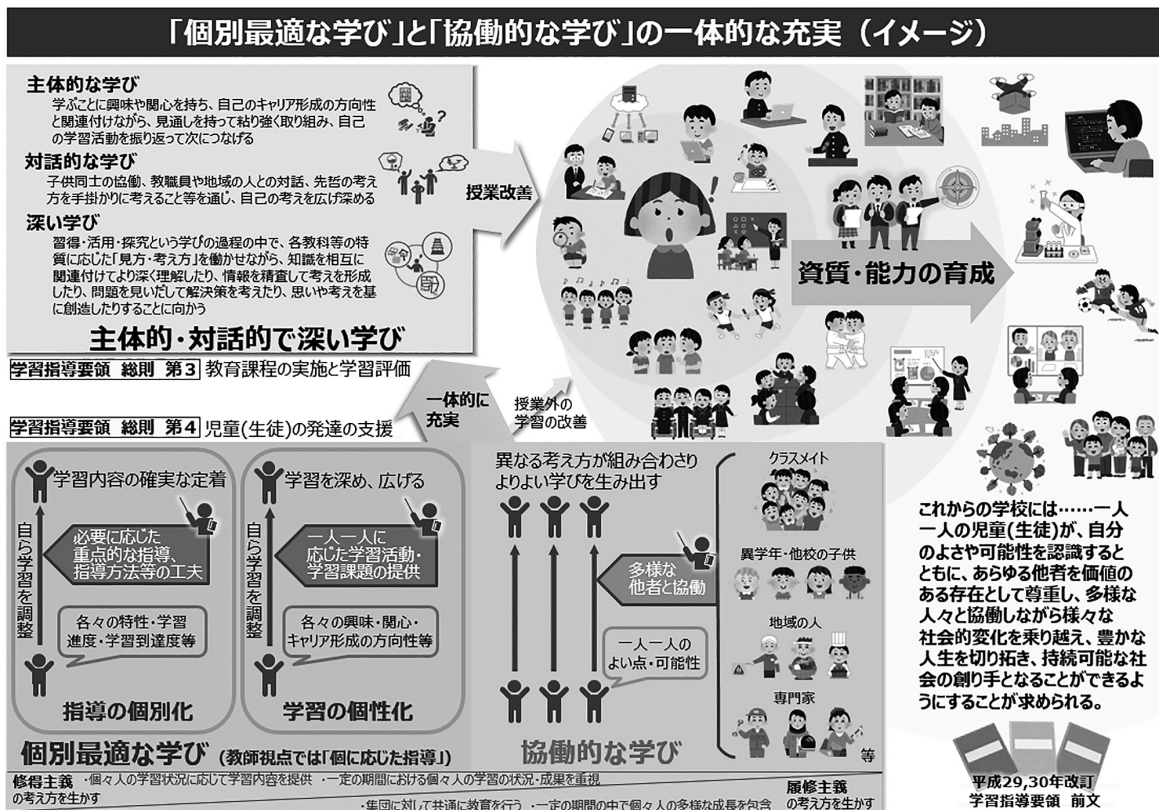
(小学校学習指導要領 総則 「第4 児童の発達の支援」より)

## 【協働的な学びとの関わり】

児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

(小学校学習指導要領 総則 「第3 教育課程の実施と学習評価」より)

現在の学習指導要領では、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるか』という観点から育成を目指す資質・能力を整理しています。そして、新型コロナウイルス感染症による休校など予測困難な時代になり、答えのない問いに立ち向かう力が必要となってきます。その上で「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、子供自身が主体的に学習に取り組み問題を解決するためには必要です。



※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

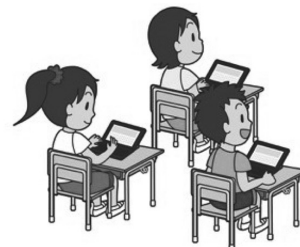


## Q. 個別最適な学び、協働的な学びとは具体的にどのようなものですか？

私たちが行っている日々の授業の中で、「個別最適な学び」や「協働的な学び」はどのように行えばよいのでしょうか。具体的な例で考えてみましょう。

### 【個別最適な学び】

- ・カメラ機能を活用して動画を撮影し確認する。
- ・疑問に思ったことをインターネットで調べる。
- ・学習用アプリ等を活用し、考えを深める。
- ・ドリル教材を活用して、自らの学び直しや発展的な学習を行う。
- ・習熟度別学習で、自分の学習ペースに合わせたコースを選択する。
- ・課題に対して自分で学習方法やまとめ方を決める。
- ・家庭学習は、自分で課題を決めて学習を進める。



### 【協働的な学び】

- ・ペア、グループなど児童生徒同士での学び合いで課題解決に取り組む。
- ・学習内容を他者に説明することで、新しい考えを学ぶ。
- ・学校行事や児童会（生徒会）活動などでの異学年間の交流し、多様な考えを知る。
- ・ふるさと教育やキャリア教育を通して、地域や多様な人材と交流する。
- ・ICTを活用して、他地域の児童生徒と交流をする。

これらのことは、これまでも私たちが行ってきた「個に応じた指導」の内容です。また、協働的な学びも、1人1台端末の導入により様々な学びの形態が可能になりました。個別の思考や対話からインプットしたことを、グループや学級全体、他地域の児童などの異なる考えを組み合わせることで新たな考えを生み出して日常生活や社会生活につなげるというアウトプットをすることで、協働的な学びはさらに深まります。これからの授業で大切なのは、教師側が一方的に解決方法を与えるのではなく、児童生徒自身が解決方法を選択し、決定するなど学習を調整する力を身に付けることです。これまでに行ってきたことを学習者の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」で授業改善を進めることが大切です。

### 3 ICT 活用に関する基本的な考え方

#### Q. Society5.0 時代にふさわしい学校とはどのような姿をさしますか？

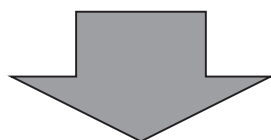
「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、ICT の活用は必要不可欠なものとなります。その背景として、

- ①情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力を育むこと。
- ②少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情にかかわらず学校教育の質を向上すること。
- ③災害や感染症等の発生など緊急時にも教育活動の継続を可能とすること。
- ④教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現すること。

など、多くの課題に対し、ICT の活用は極めて大きな役割を果たすものと考えられています。

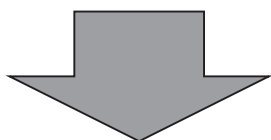
これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげ、Society5.0 時代にふさわしい学校を実現できるのではないかと考えられています。その際、PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行っていくことや、ICT を活用すること自体が目的化してしまわないように十分に留意する必要があります。

- ・情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力を育む
- ・地理的要因や地域事情にかかわらず学校教育の質を向上する
- ・緊急時にも教育活動の継続を可能とする
- ・学校の働き方改革を実現する



#### 【ICT 活用に関する基本的な考え方】

- ・学校教育の基盤的なツールとして、ICT は必要不可欠！
- ・これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせる



#### 【Society5.0 時代にふさわしい学校を実現のために…】

- ・様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげる。
- ・PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う
- ・ICT を活用すること自体が目的化しないように留意

## Q. 学校教育の質の向上に向けて、どのように ICT を活用すればよいですか？

ICT の活用により学習指導要領を着実に実施し、学校教育の質の向上につなげるためには、カリキュラム・マネジメントを充実させつつ、育成を目指す資質・能力を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことが重要になってきます。従来では伸ばせなかった資質・能力の育成や、他の学校・地域や海外との交流など今までできなかった学習活動の実施、家庭など学校外の学びの充実などにも ICT の活用は有効的です。

では、学校教育の質の向上のためには、ICT をどのように活用するとよいのでしょうか。3 点に分けて考えます。

### ①端末を日常的に活用する

GIGA スクール構想により、1 人 1 台端末の利用が可能になりました。どの学校でも端末が導入され、その活用方法や使用時のルールなどについて整備を進めているところだと思います。

これからの時代、ICT の活用が特別なことではなく「当たり前」のこととなるようにすることが大切です。子供たち自身が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるよう環境整備を整え、授業のどの場面で ICT を活用すると効果的なのかをデザインすることが必要となります。



### ②支援が必要な児童生徒に対するきめ細やかな支援

現代の教育現場では、不登校や病気療養、日本語指導を必要とするなど特別な配慮が必要な児童生徒がたくさんいます。様々な状況に対応し、児童生徒の学びを止めないようにするためにも ICT の活用が重要になってきます。オンラインで授業を行ったり、一人一人に合わせた教材を準備したりするなど、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会を提供することが大切です。

### ③ICT の活用と少人数によるきめ細やかな指導

個別最適な学びと協働的な学びを実現させるためには、ICT の活用だけを行えばできるものではありません。これまで行ってきた少人数によるきめ細やかな指導体制と ICT の効果的な活用を両輪として進め、児童生徒一人一人に寄り添ったきめ細やかな指導、学習活動・機会の充実を図ることが重要です。①でも述べたように、効果的な授業デザインを検討することが大切です。

## Q. ICT 活用に向けた教師の資質・能力の向上はどのように行いますか？

児童生徒が1人1台端末を使用し、いつでもクラウドにアクセスできる時代を迎え、学校教育の質の向上に向けて ICT を活用するためには、教師自身が養成・研修全体を通じて必要な資質・能力を身に付けることが必要となってきます。ではこのような資質・能力の向上はどのように行っていくのでしょうか。ここでは、養成段階と現職の教師に分けて考えていきます。

### 【養成段階において…】

#### ○ICT 活用指導力の養成

学生が1人1台端末を持っていることを前提とした教育を実現しつつ、児童生徒にプログラミング的思考、情報モラルなどに関する資質・能力も含む情報活用能力を身に付けさせるための指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用など教師のデータリテラシーの向上に向けた教育の充実が図られます。

※データリテラシーとは、データを読み、使い、分析し、データに基づいてコミュニケーションをとる能力のことです。

#### ○指導ノウハウの収集・分析

教員養成大学や学部・教職大学院では、学校教育における ICT を効果的に活用した指導のノウハウをいち早く収集・分析し、新たな時代に対応した教員養成モデルを構築するなど、Society5.0 時代の教師養成の実現を目指すようにしています。

### 【現職の教師において…】

#### ○ICT 活用指導力の向上

Society5.0 時代を認識しつつ、国によるコンテンツの提供や都道府県ごとの研修などにより、適切な活用方法を知り、指導できるようにすることが必要です。校内においても ICT を積極的に活用できるように研修会を行うなど、どの教師も活用や指導ができるようにすることが求められます。

現職の教師である私たちにとって、ICT 活用指導力とはどのようなものなのか分からない方も多いかと思います。文部科学省HPに掲載されている「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」で、自分自身の活用指導力を定期的に確認することも大切です。

校内研修においても、研修ロードマップ等を作成し、ねらいを明確にした研修を計画的に進めることが必要です。

# 教員のICT活用指導力チェックリスト

平成30年6月改訂

ICT環境が整備されていることを前提として、以下のA-1からD-4の16項目について、右欄の4段階でチェックしてください。

4 できる	3 ややできる	2 あまりできない	1 ほとんどできない
----------	------------	--------------	---------------

## A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力

A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	4	3	2	1
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	4	3	2	1
A-3 授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	4	3	2	1
A-4 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	4	3	2	1

## B 授業にICTを活用して指導する能力

B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	4	3	2	1
B-4 グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	4	3	2	1

## C 児童生徒のICT活用を指導する能力

C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	4	3	2	1
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	4	3	2	1
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	4	3	2	1
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	4	3	2	1

## D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	4	3	2	1
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	4	3	2	1

## Q. 授業での ICT 活用例を教えてください。

ICT の本格的な活用が始まったばかりですが、胆振管内の多くの学校で先進的な実践事例が多くあります。胆振教育研究所では、今年度の調査課題研究で「ICT 機器の授業における活用例」について研究し、多くの優れた実践事例をいただきました。一部ではありますが紹介したいと思います。

### 【小学校】



伊達市立星の丘小学校 村上 徹朗 先生  
「小学校3年 社会 店ではたらく人と仕事」



豊浦町立大岸小学校 松田 慎太郎 先生  
「担当学級における ICT 機器を活用した授業の実践について」



伊達市立関内小学校 大谷 真由美 先生  
「小学校5年 音楽 和音のはたらきを感じ取ろう」



厚真町立上厚真小学校 阿部 巧 先生  
「ICT の効果的な活用と活用場面について」

### 【中学校】



むかわ町立穂別中学校 小林 潤平 先生  
「中学校 英語 Microsoft Teams・Microsoft Forms を活用した授業づくり」



早来町立早来中学校 星 聡志 先生  
「学びに向かう力を伸ばすために」

この他にも胆振教育研究所のホームページにて紹介していますのでご覧ください。

## Ⅲ 今後の方向性

### 今年度の研究を振り返って

今年度は、研究主題「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」の1年次として、「個別最適な学びと協働的な学び」の基本的な理論とICTの活用に関する基本的な考え方についてまとめてきました。

今年度の成果と課題には、次の点が挙げられます。

#### 〈成果〉

- 学習指導要領の趣旨をおさえて、個別最適な学びと協働的な学びについて様々な視点でまとめることができた。
- ICTの活用について、今年度の本教育研究所の調査課題研究「ICT機器の効果的な活用に関する調査」と連携して、胆振管内の実践事例を紹介することができた。
- 次年度以降の方向性を示し、研究の道筋をつけることができた。

#### 〈課題〉

- 個別最適な学びと協働的な学びについての実践事例が少なく、授業でどのような形で実現できるのかについて、様々な観点から研鑽する必要がある。
- ICTの活用について、学校や家庭での活用方法についての研鑽が必要である。
- 令和の日本型学校教育について、更なる情報発信が必要である。

次年度以降については、この課題に対し、胆振管内の各学校での実践例を交えながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて研究を深めていきます。

## ◆参考資料一覧

- ・学習指導要領（平成 29 年告示）、学習指導要領解説（文部科学省）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（文部科学省）
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供達の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）（文部科学省）
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（文部科学省）
- ・教育の情報化に関する手引（文部科学省）
- ・校内研修シリーズ No. 94 「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（N I T S）
- ・研修プランシリーズ「主体的・対話的で深い学びの 3 つの視点を養う」（N I T S）

## ◆研究・執筆

役職名	氏名	所属学校	職名
所 長	立 花 和 実	伊達市立伊達中学校	校長
副 所 長	坂 本 博	登別市立幌別中学校	校長
事 務 局 長	武 田 成 永	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
事務局次長	白 井 賢 司	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所 員	渡 辺 隆 之	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所 員	石 井 芳 政	伊達市立伊達西小学校	教諭
所 員	宮 崎 雄太朗	伊達市立光陵中学校	教諭
所 員	若 林 梨 恵	登別市立幌別小学校	教諭
所 員	関 川 恭 平	登別市立若草小学校	教諭
所 員	黒 川 知 恵	白老町立白老小学校	教諭
事 務 職 員	水 留 恵美子	胆振教育研究所	



## ◆あとかき

今年度の理論研究のテーマである「個別最適な学びと協働的な学びの実現」は、令和3年1月の中央教育審議会の答申をもとに研究を進めてきました。「はじめに」の部分には次のように記されています。

日本の学校教育はこれまで、学習機会と学習を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保証する役割や、人と安全・安心につながるができる居場所としての福祉的な役割も担ってきた。この役割の重要性は今後も変わることはない。これまで、日本型学校教育が果たしてきた役割を継承しつつ、学校における働き方改革やGIGAスクール構想を強力に推進するとともに、新学習指導要領を着実に実施し、学校教育を社会に開かれたものとしていくこと、(中略) 学校教育を支える全ての関係者が、それぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで、「令和の日本型学校教育」の実現に向けた必要な改革に果敢に進めていくことを期待するものである。

新型コロナウイルスによる休校や学習の制限など、今まで想像しなかった世の中になっている今日、「いつになったらこの状況から抜け出せるのだろう」と誰もが思い、その度に「これからの子供たちにできることは何なのか」と自問自答する日々を送ってきました。そのような中、私たちは、職場の同僚と相談しながら未来を担う子供たちのために今できる最大限の教育活動を進めてきました。どのような時代になっても、学校教育が担ってきた役割を変えることなく、私たちが今まで積み重ねてきた経験をもとに予測困難な時代に生きる力をつけることができるよう、私たちの働き方もアップデートさせることが必要だと実感しています。

今年度、本教育研究所では個別最適な学びと協働的な学びについての基本的な理論について研究をまとめました。それぞれの視点から「個別最適な学びと協働的な学びとは何か」ということを考え、日常の教育活動でご活用いただければ幸いです。

次年度も個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて、より具体的な取組や実践事例などをまとめ、情報発信をしていきたいと考えております。今後とも、胆振教育研究所に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

担当所員 黒川 知恵

令和3年度 研究紀要 第235号

《研究主題》

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

～1年次～

発行年月日 令和4年3月4日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 立花和実

印刷 デザインワーク・エーヂ